



“地域のことは地域で考えよう”

2019年11月28日

## おきぎん県内景況・速報 2019年10月

### 一県内景況は、拡大している一

#### ■個人消費

スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を下回る。  
百貨店売上高は前年同月を下回る。  
家電卸出荷額は前年同月を上回り、新車販売台数は下回る。

#### ■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を上回る。  
生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

#### ■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数は下回る。  
ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテルともに下回る。  
ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回る。

#### ■企業倒産

件数は前年同月と同数、負債総額は前年同月を下回る。

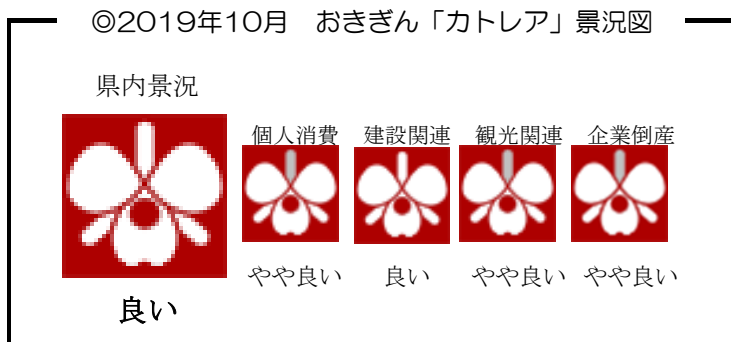
### 現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

## おきぎん県内景況・速報(2019年10月分)



### ◎概況：県内景況は、拡大している。

10月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を下回りました。百貨店売上高も前年同月を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月を上回りました。新車販売台数は前年同月を下回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は3ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。建設資材である生コンは、公共工事向け、民間工事向けがともに増加したことから前年同月を上回り、セメントも前年同月を上回りました。

観光関連では、入域観光客数は2ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数は前年同月を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテルともに前年同月を下回りました。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回りました。

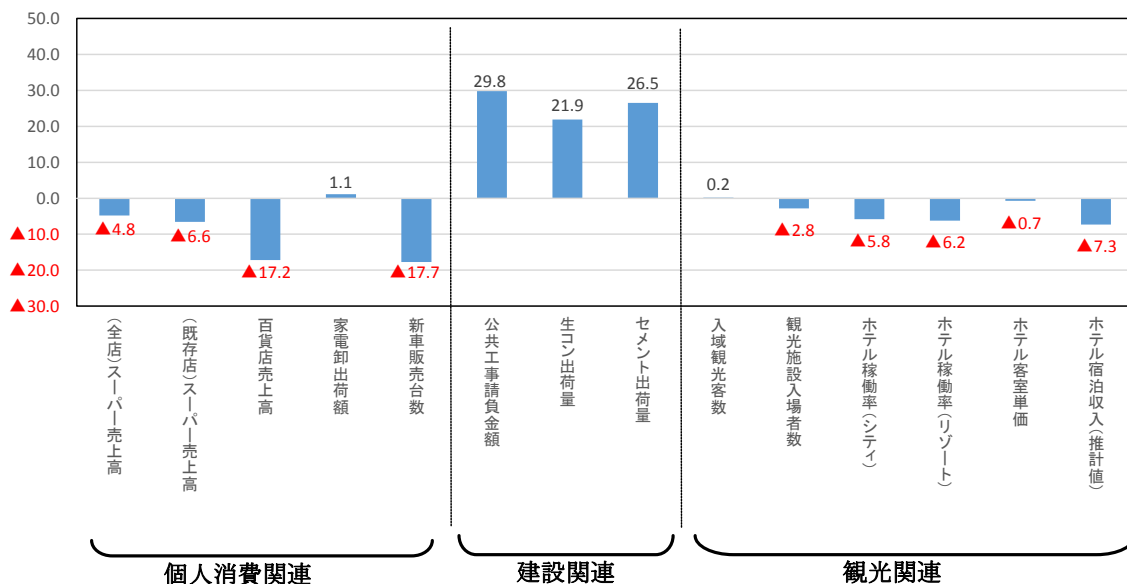
※ビジネスホテルについては、サンプルの都合上、今回は未公表としています。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連では堅調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から69ヵ月連続で判断維持)

### 主要景気指標前年同月比

(単位: %、ポイント)



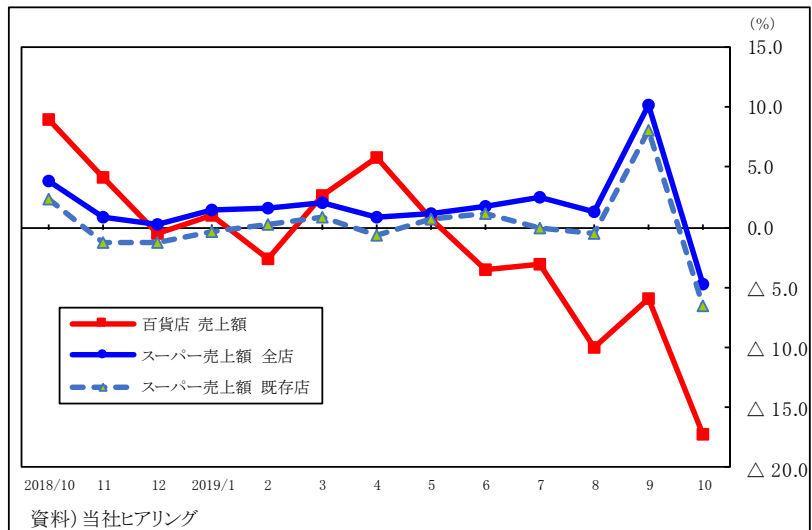


■個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を下回る。百貨店売上高も前年同月を下回る。

単位:%

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2018/10	3.9	2.4	9.0
11	0.8	△ 1.3	4.1
12	0.3	△ 1.3	△ 0.5
2019/1	1.5	△ 0.3	1.0
2	1.6	0.2	△ 2.6
3	r 2.0	r 0.9	2.6
4	0.9	△ 0.6	5.8
5	1.2	0.7	0.7
6	1.7	1.2	△ 3.6
7	2.5	r △ 0.02	△ 3.1
8	1.3	△ 0.5	△ 10.0
9	10.2	8.1	△ 5.9
10	△ 4.8	△ 6.6	△ 17.2



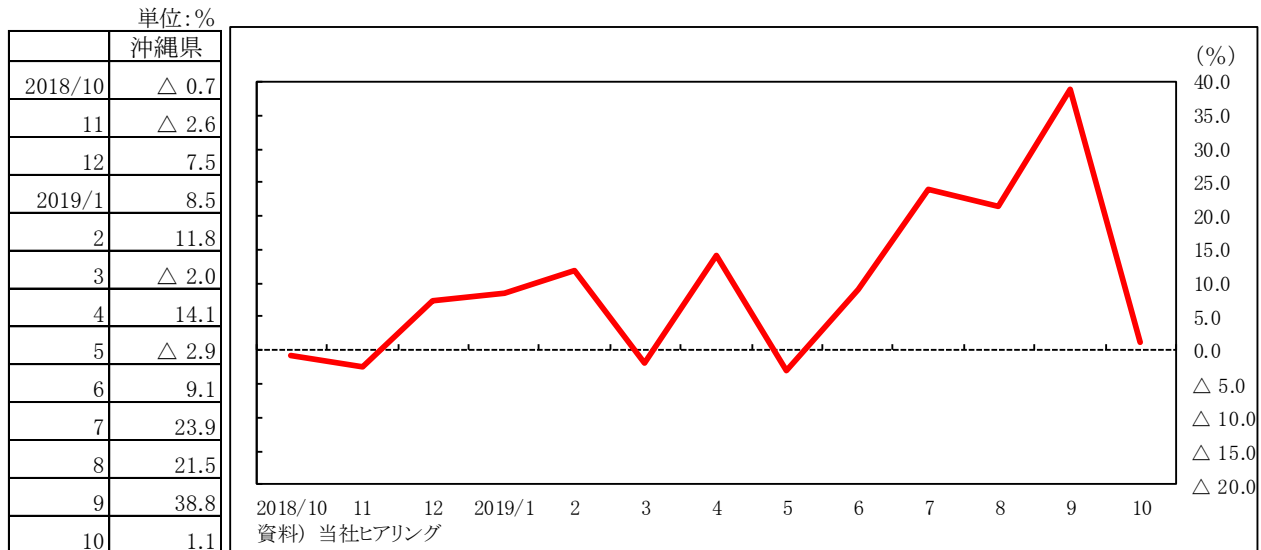
注) 前年同月比

10月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 4.8%減)」は、13ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動減などが見られ、「衣料品(同 7.1%減)」、「家庭用品(同 3.6%減)」、「食料品(同 5.0%減)」など、全般的に売上げが伸びず、前年同月を下回りました。

「既存店ベース(同 6.6%減)」は、2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。品目別では、ウェイトの高い「食料品(同 5.2%減)」は、前年に台風接近により一時的に伸びた反動などにより、全般的に売上げが伸びず、前年同月を下回りました。また、家電を含む「家庭用品(10.1%減)」は、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動減などが見られ、前年同月を下回りました。「衣料品(同 14.2%減)」も、前年に比べ気温が高く推移した影響などから、冬物商材の売上げが伸びず、前年同月を下回りました。

百貨店売上高は、インバウンド需要の減少や、消費税増税の駆け込み需要の反動などにより、全般的に売上げが伸びず、5ヵ月連続で前年同月を下回りました(同 17.2%減)。内訳をみると、「食料品(同 5.1%減)」は、前年に開催した物産展を開催しなかったことなどから、前年同月を下回りました。ウェイトの高い「衣料品(同 16.6%減)」は、販促企画を行うも、消費税増税の駆け込み需要の反動などにより、「紳士服(同 13.2%減)」、「婦人服(同 13.3%減)」など、全般的に売上が伸びず、前年同月を下回りました。化粧品等の「雑貨(同 20.4%減)」は、インバウンド需要の減少により、前年同月を下回りました。靴、バッグ等の「身のまわり品(同 7.2%減)」も、消費税増税の駆け込み需要の反動や、インバウンド需要の減少により、前年同月を下回りました。

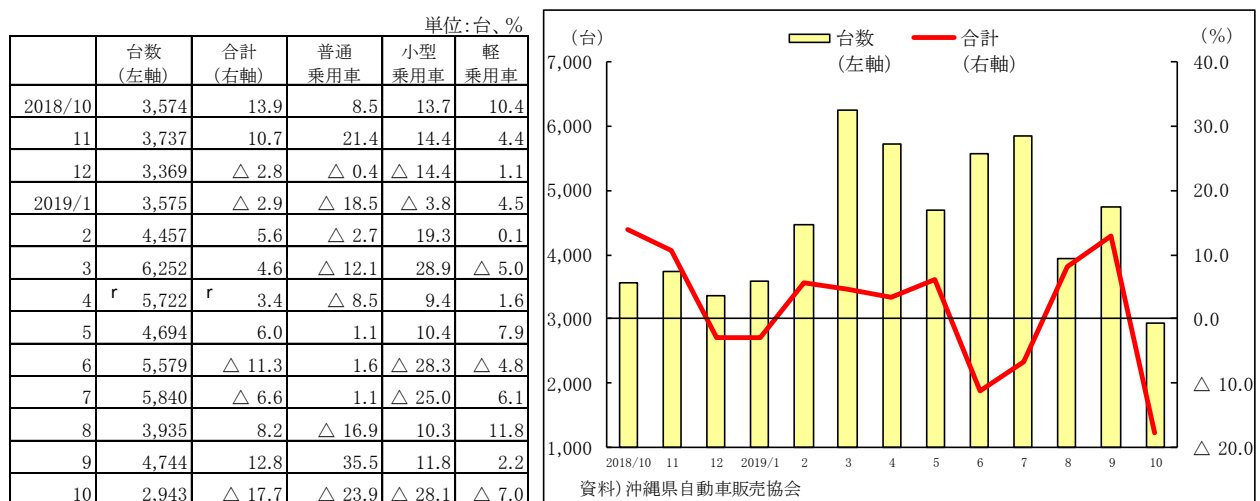
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は5ヵ月連続で前年同月を上回る。



注) 前年同月比

**家電卸出荷額**は、消費税増税の駆け込み需要の出荷等があり、5ヵ月連続で前年同月を上回りました(同 1.1%増)。品目別では、「テレビ(同 8.1%増)」は、4K 等の高価格帯商品が伸び、また、「冷蔵庫(同 18.0%増)」は、大型商品が売れ行きが好調で、それぞれ前年同月を上回りました。「エアコン(同 10.5%増)」は、前年に比べ気温が高く推移した影響などから、前年同月を上回りました。「太陽光パネル(同 38.9%増)」も、前年同月を上回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、3ヵ月ぶりに前年同月を下回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

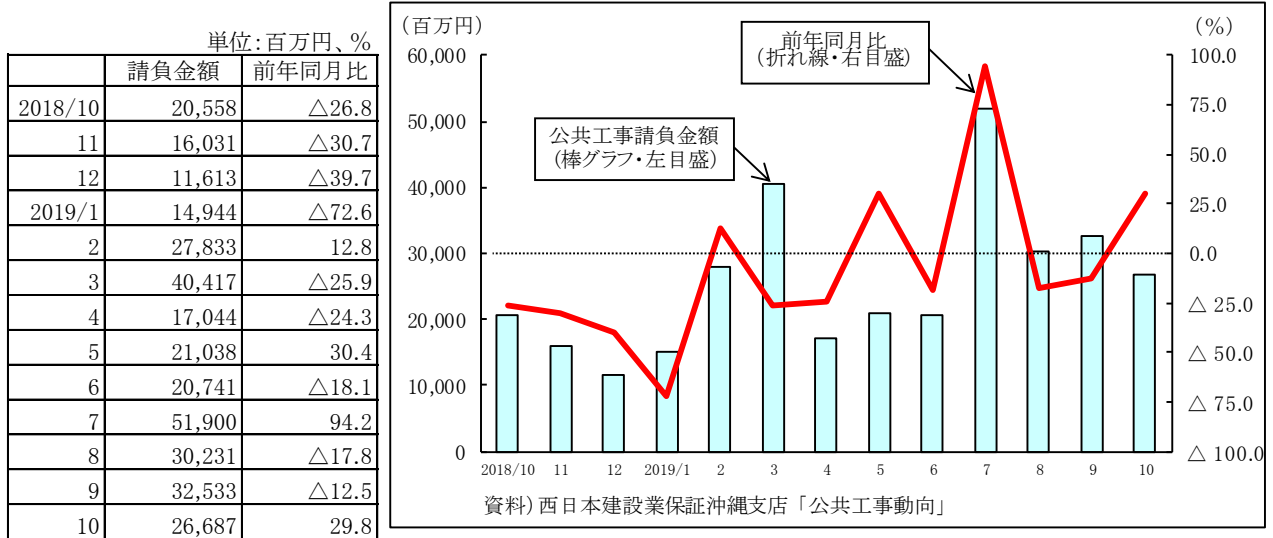
**新車販売台数**は、全体で2,943台(同 17.7%減)となり、3ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。車種別では、「普通乗用車(同 23.9%減)」、「小型乗用車(同 28.1%減)」、「軽乗用車(同 7.0%減)」と、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動減などが見られ、全車種で前年同月を下回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

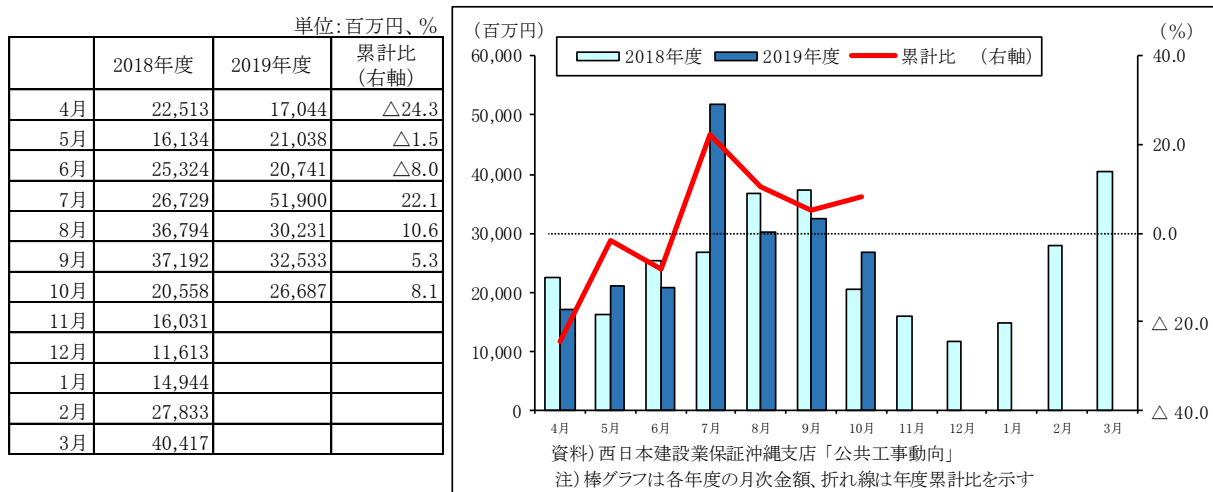


■ 建設関連： (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を上回る。



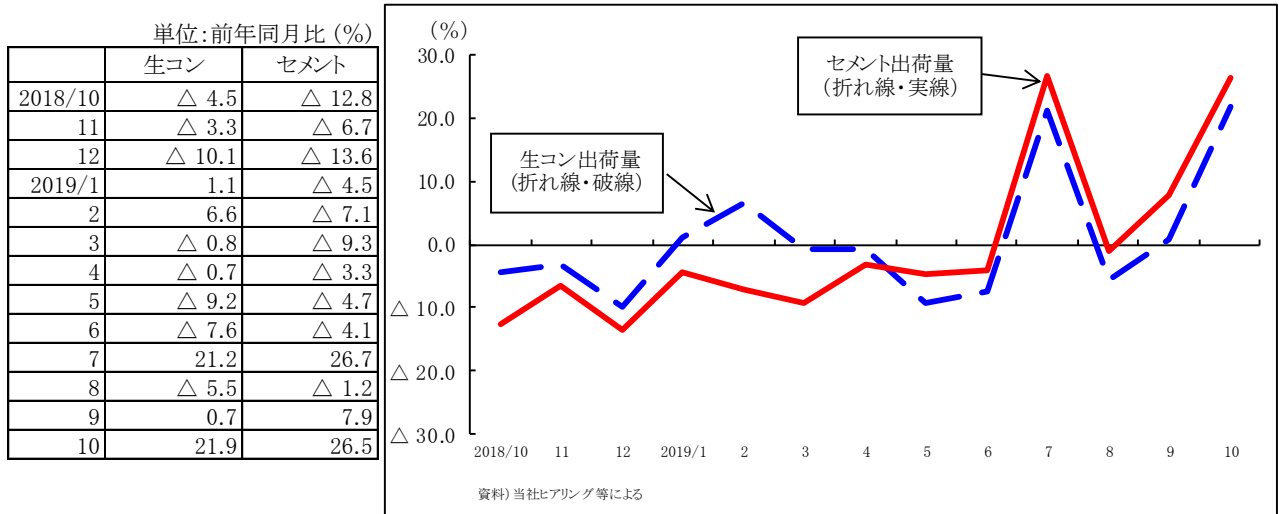
【参考】公共工事（年度累計）・・・公共工事請負金額は前年同期を上回る。



10月の公共工事請負金額は、前年同月比29.8%増の266億8,700万円となりました(3ヵ月ぶり増)。今年度累計値では、8.1%増となっています。

発注者別でみると、「国(同203.0%増)」や「市町村(同32.5%増)」、「その他の公共的団体(同55.7%増)」は前年同月を上回りました。一方で、「沖縄県(同0.04%減)」や「独立行政法人等(同93.7%減)」は下回りました。

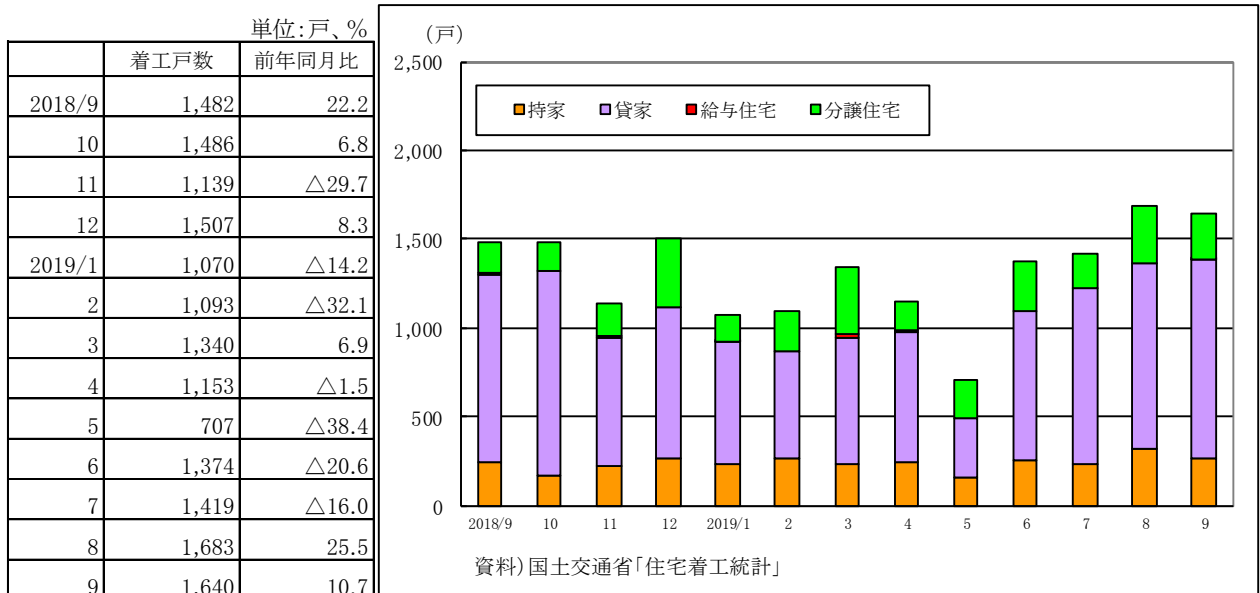
②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を上回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

**建設資材関連**では、生コンの出荷量は21.9%増と2ヵ月連続で前年同月を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷は、防衛関連工事の出荷などで前年同月より18.9%上回り、民間工事向けは、宿泊施設等工事の出荷などで前年同月より23.2%上回りました。セメント出荷量は各地区への出荷が好調であり26.5%増と2ヵ月連続で前年同月を上回りました。

【参考】住宅投資(9月)・・・着工戸数は前年同月を上回る。

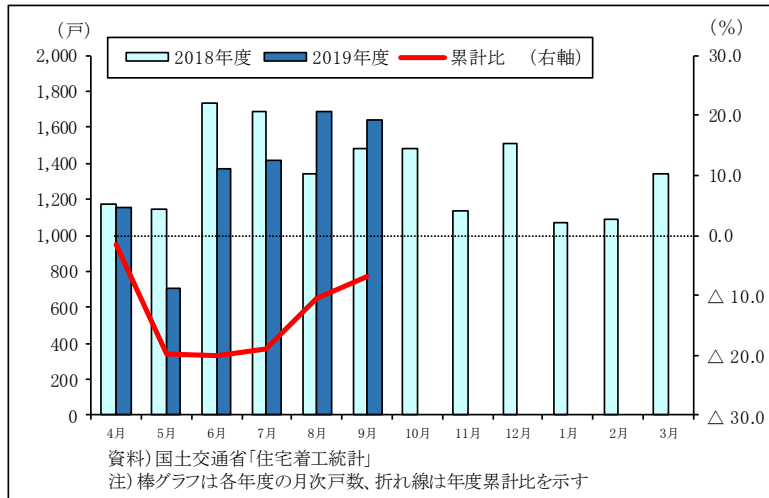


**新設住宅着工戸数**は、全体で前年同月比10.7%増の1,640戸となり、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家(同6.1%増)」のほか、「持家(同6.5%増)」や「分譲住宅(同49.1%増)」は前年同月を上回りました。一方で、「給与住宅(同66.7%減)」は前年同月を下回りました。市町村別にみると、「石垣市」や「那覇市」などで前年同月を上回りました。

住宅投資（年度累計）・・・着工戸数は前年同期を下回る。

単位:戸、%

	2018年度	2019年度	累計比 (右軸)
4月	1,171	1,153	△1.5
5月	1,148	707	△19.8
6月	1,730	1,374	△20.1
7月	1,690	1,419	△18.9
8月	1,341	1,683	△10.5
9月	1,482	1,640	△6.8
10月	1,486		
11月	1,139		
12月	1,507		
1月	1,070		
2月	1,093		
3月	1,340		

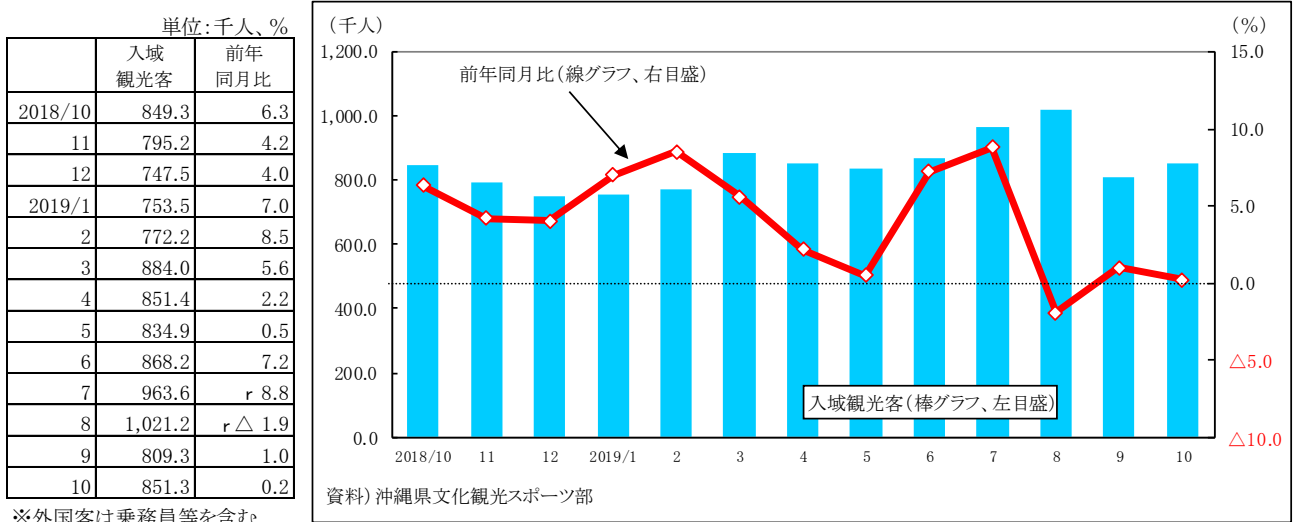


今年度累計値では、6.8%減となっています。



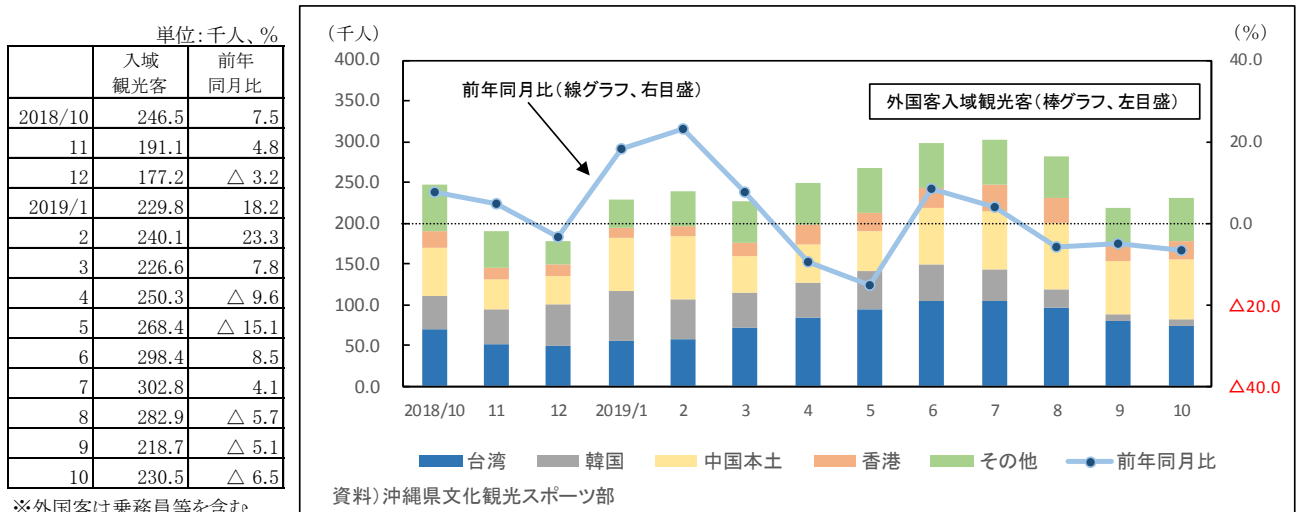
■観光関連： (やや良い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・2ヵ月連続で前年同月を上回る。



※外国客は乗務員等を含む

外国客 入域観光客数・・・3ヵ月連続で前年同月を下回る。



※外国客は乗務員等を含む

10月の入域観光客数は、2,000人多い851,300人(前年同月比0.2%増)となり、2ヵ月連続で前年同月を上回りました(10月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同3.0%増)」は620,800人と、台風の影響による航空路線の欠航があったものの、大手旅行会社の沖縄旅行キャンペーン強化の取組があったことや、即位礼正殿の儀の休日があったことなどから、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。

他方、「外国客(同6.5%減)」は、230,500人と3ヵ月連続で前年同月を下回りました。クルーズ船の寄港回数増加により海路客は増えたものの、韓国市場における訪日旅行自粛の動きや航空路線の減便があったことなどから、前年同月を下回りました。

「台湾(同5.6%増)」「韓国(同80.9%減)」「中国本土(同23.9%増)」「香港(同11.5%増)」

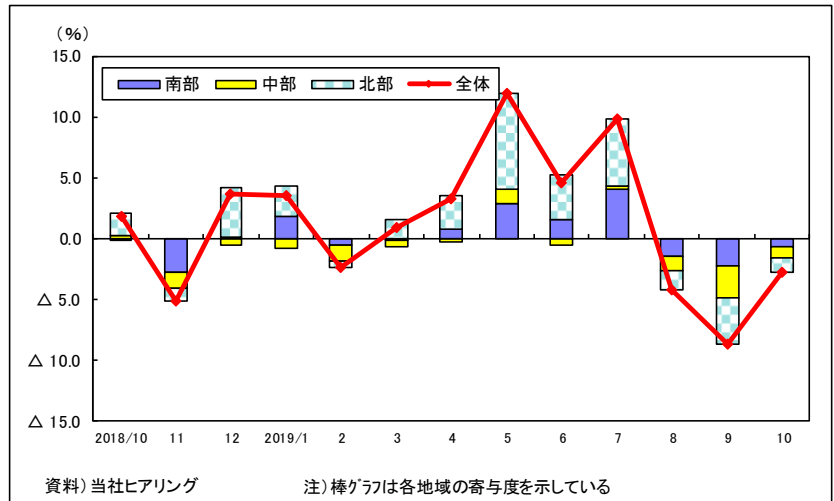
※乗務員等を除く2019年10月実績＝全体816,500人(同0.2%減)、外国客195,700人(同9.0%減)、国内客は変わらない。



② 観光施設入場者数・・・3ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2018/10	1.9	△ 0.6	2.3	3.9
11	△ 5.2	△ 6.1	△ 11.3	△ 2.4
12	3.6	0.1	△ 4.3	9.8
2019/1	3.5	4.2	△ 6.1	5.8
2	△ 2.5	△ 1.4	△ 11.5	△ 1.2
3	0.9	△ 0.4	△ 4.7	3.4
4	3.2	1.9	△ 2.2	5.7
5	12.0	6.4	11.1	17.6
6	4.6	3.5	△ 6.7	7.8
7	9.8	10.8	2.8	10.3
8	△ 4.2	△ 4.1	△ 11.2	△ 3.0
9	△ 8.7	△ 6.3	△ 25.2	△ 7.1
10	△ 2.8	△ 1.7	△ 9.4	△ 2.4



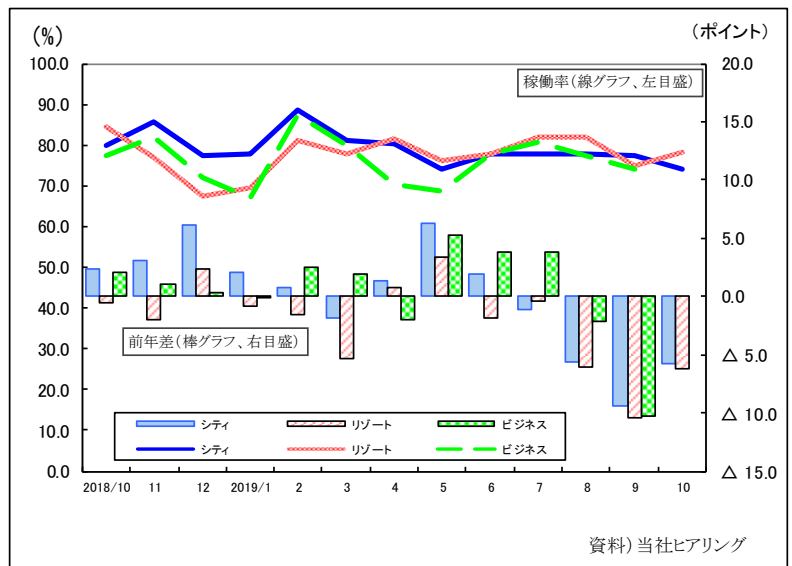
※調査対象施設数＝南部6、中部5、北部4施設  
 ※2019年1月より、中部の対象施設数が変更(6⇒5)となったことから、2018年1月以降の数値を遡って改定した。  
 ※2019年3月より、北部の対象施設数に変更(5⇒4)となったことから、2018年3月以降の数値を遡って改定した。  
 ※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より 2.8%減少(3ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同 1.7%減と3ヵ月連続、中部は同 9.4%減と3ヵ月連続、北部は同 2.4%減と3ヵ月連続で前年同月を下回りました。

③ ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテルともに前年同月を下回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2018/10	79.9	84.4	77.3	2.4	△ 0.5	2.0
11	85.5	76.9	82.1	3.1	△ 2.0	1.1
12	77.4	67.3	72.0	6.2	2.3	0.3
2019/1	77.9	69.6	67.0	2.1	△ 0.9	△ 0.1
2	88.4	81.2	87.3	0.7	△ 1.6	2.5
3	81.0	77.8	80.0	△ 1.8	△ 5.3	1.9
4	80.2	81.4	70.5	1.3	0.8	△ 2.0
5	74.2	76.2	68.8	6.3	3.3	5.3
6	77.8	77.7	77.6	1.9	△ 1.8	3.8
7	77.8	81.9	80.6	△ 1.2	△ 0.4	3.8
8	77.8	81.9	77.4	△ 5.6	△ 6.1	△ 2.2
9	77.5	75.0	74.0	△ 9.4	△ 10.4	△ 10.3
10	74.1	78.2	-	△ 5.8	△ 6.2	-



注)シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス6ホテル  
 注)2019年3月より、ビジネスホテル対象施設数に変更(7⇒6)となったことから、2018年3月以降の数値を遡って改定した。  
 注)2019年10月のビジネスホテルについては、サンプルの都合上、未公表となっている。  
 ※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

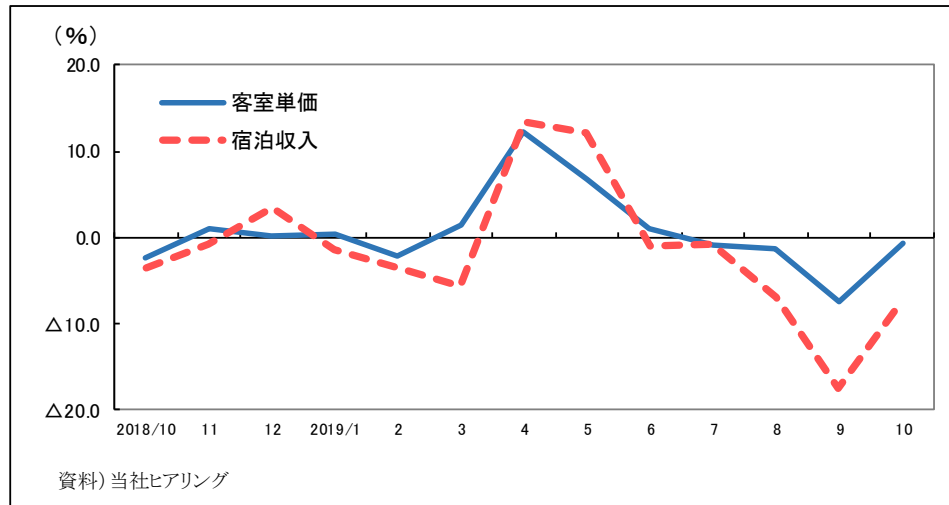
県内ホテル稼働率は、シティホテルが 74.1%と 5.8ポイント減少(4ヵ月連続)、リゾートホテルが 78.2%と 6.2ポイント減少(5ヵ月連続)しました。

※ビジネスホテルについては、サンプルの都合上、今回は未公表としています。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入も下回る。

単位:%

	客室単価	宿泊収入
2018/10	r △2.3	△3.5
11	0.9	△0.8
12	0.1	3.4
2019/1	0.3	△1.5
2	△2.2	△3.6
3	1.5	△5.6
4	12.3	13.4
5	6.7	12.2
6	1.1	△1.0
7	△0.9	△0.8
8	△1.4	△7.0
9	r △7.4	r △17.5
10	△0.7	△7.3



※対象施設数:26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

**ホテル客室単価**(シティ&リゾート)は前年同月比 0.7%減と前年同月を下回りました。**宿泊収入**も同7.3%減と前年同月を下回りました。

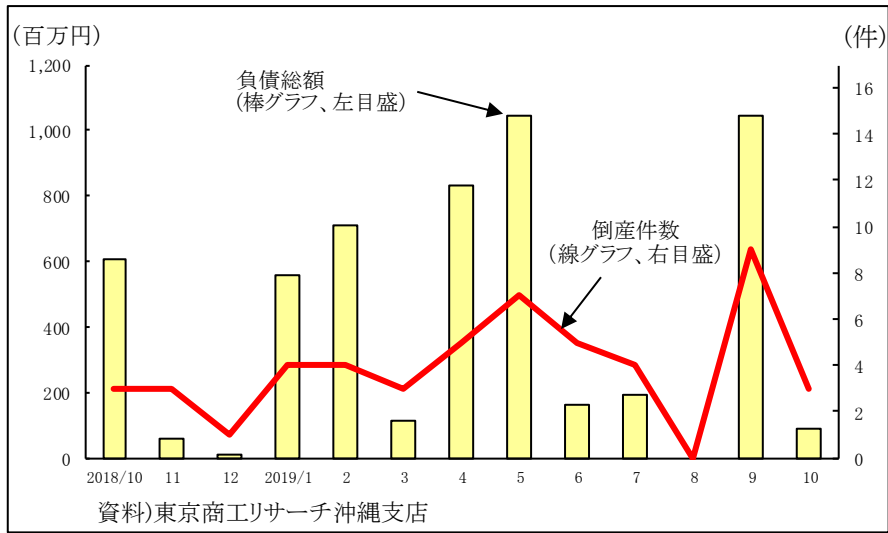


■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数は前年同月と同数、負債総額は下回る。

単位: 百万円、件

	負債総額	倒産件数
2018/10	605	3
11	56	3
12	10	1
2019/1	560	4
2	708	4
3	110	3
4	832	5
5	1,042	7
6	163	5
7	190	4
8	0	0
9	1,045	9
10	86	3



9月の企業倒産件数は、3件(うち大口倒産はなし)となり、前年同月と同数となりました。

負債総額は8,600万円となり、前年同月より85.8%下回りました。

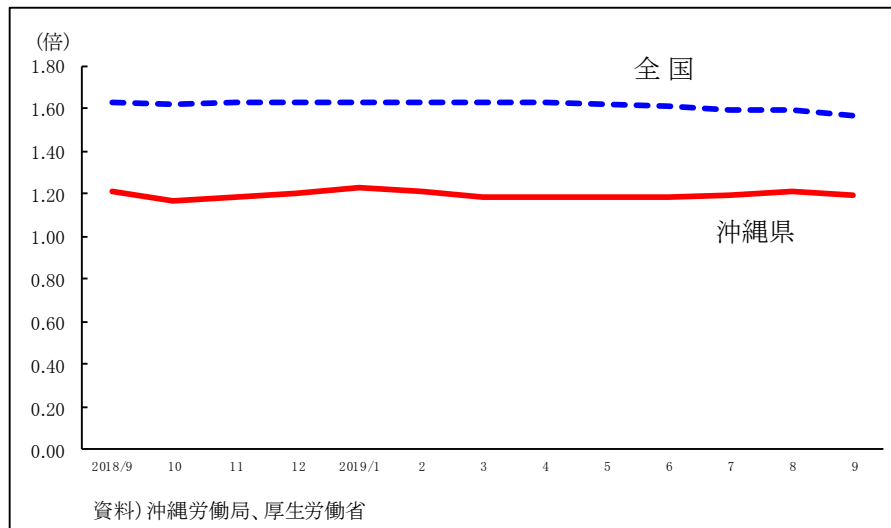


■雇用関連： (良い)

【参考】有効求人倍率(9月)・・・沖縄、全国はともに前月より低下。

単位: 倍

	沖縄県	全国
2018/9	1.21	1.63
10	1.17	1.62
11	1.18	1.63
12	1.20	1.63
2019/1	1.23	1.63
2	1.21	1.63
3	1.18	1.63
4	1.18	1.63
5	1.18	1.62
6	1.18	1.61
7	1.19	1.59
8	1.21	1.59
9	1.19	1.57



注) 季節調整済

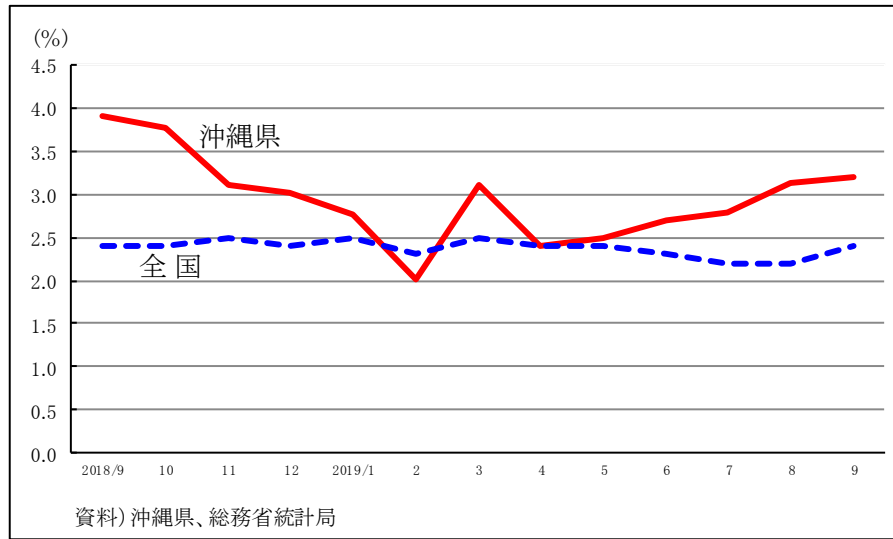
9月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比0.5%減の30,450人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比1.2%増の25,608人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.19倍となり前月より0.02ポイント低下しました。

【参考】完全失業率(9月)・・・沖縄、全国はともに前月より上昇。

単位: %

	沖縄県	全国
2018/9	3.9	2.4
10	3.8	2.4
11	3.1	2.5
12	3.0	2.4
2019/1	2.8	2.5
2	2.0	2.3
3	3.1	2.5
4	2.4	2.4
5	2.5	2.4
6	2.7	2.3
7	2.8	2.2
8	3.1	2.2
9	3.2	2.4

注) 季節調整済



9月の完全失業率(季節調整値)は、3.2%となり前月より0.1ポイント上昇しました。